

村社手力雄神社は、九重村大井字船田に鎮座す。手力雄命・天御中主神・太田命を合祀す。境内六百坪。

由緒

元正天皇養老二年戊午七月七日創建。承久二年庚辰六月八日、鎌倉將軍源賴經社殿を造營す。永仁二年甲午十二月二十七日、地頭安東六郎泰明修繕を加ふ。正和六年丁巳正月十五日、安東太郎明頼築造。應永十一年甲申七月五日、將軍足利義滿本殿を改築せらる。正長二己酉年八月二十二日、地頭磯河守實則併に堀籠豊後入道義實修理を加ふ。延徳三年辛亥九月十五日、地頭平朝臣太郎治郎明高改築。永正九年壬申九月二十八日、里見義通・同義豊・修理をなす。天正十二甲申年十二月、里見義頼造營、社格正一位に叙せられ、神力山手力雄大明神の號を賜はる。明治二年六月舊號を革めて、手力雄神社と稱す。

國司神社

館山町磯崎にあり、境内百十七坪。安房守金吾源親元を祀る。永久二年創立。明治七年村社に列せらる。(第十六章第二節 源親元ノ條參照)

山宮神社

豊房村東長田に在り。境内千二百三十二坪。大山祇命・事代主命を祀る。

由緒

社傳に曰く、朱鳥元年 中臣幸彦攝津國三島より來り、此處に本社を創建す。養老二年 班田使下

向の時、神田七町八段歩を給せられ、事代主命を配祀す。貞觀十二年 藤原豐宗卿幣帛を奉納す。治承四年源頼朝使者を派して武運長久を祈らせらる。明應四年里見氏より十石の寄附あり。寛永十三年幕府朱印を賜はる。

(口) 祭事

祭日は一月七日を山鎮祭と稱し、九月十五日北條八幡神社に神輿渡御あり。鏡浦に於て禊事を行ふ此の祭事延久三年八月より今日に至るまで闕くることなしと云ふ。

下立松原神社

健田村牧田の中央旭ヶ岡と稱する處に在り。境内五百四十坪。神殿の背後山嶺を繞らし、喬松老杉亭々として矗立し、閑寂幽邃壯嚴を極む。

(イ) 由緒

神武天皇即位の初年、阿波忌部の孫美努射持命、其の祖天日鷲命を奉祀せし所にして延喜式に載す治承四年九月源頼朝本社に參拜し、社後の岡上に登り、朝旭の海上より昇るを拜し、武運の長久を祈る。故に旭ヶ岡の稱あり。

(ロ) 神寶

大般若經

源頼朝の奉納したる書寫の大般若經六百軸は年々誦讀の式盛なりしが、歲月を歴るに從ひ缺損す仍て近年其の殘存する所の數十卷を收め、石函を造りて之を藏す。